

第 20 回日韓国際シンポジウム開催のお知らせ

2014 年度日韓国際シンポジウムを下記の日程で開催します。多くの会員の参加を希望します。

日 時：2014 年 8 月 23 日（土）午前 9 時受付開始 午前 9 時 30 分開会

開催場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 26 号館多目的教室

<http://www.waseda.jp/jp/campus/index.html>

テーマ：「日韓共同研究の可能性を探る～グローバル時代におけるメディア研究」

趣 旨：

2014 年は日本マス・コミュニケーション学会と韓国言論学会が共催で年 1 回開催する日韓国際シンポジウム（韓日国際シンポジウム）が 20 回を数える節目にあたる。

そこで、次世代へつなげる課題、研究テーマを両国から報告し、それぞれが抱えるメディア、ジャーナリズム、マス・コミュニケーションの問題—相手国のこういうところが知りたい、日韓国内でメディアが対立しているなどというのも大きな柱—を報告し、21 回以降の共通テーマや課題について議論するような場とする。

例えば、韓国、日本それぞれのメディアが、両国にまたがる“対立する”諸問題について、どのようなスタンスに立ち、どう報じているのか。報道、論調はそれぞれの国内でも、メディア間でかなりの開きがあり、一様ではない。メディアは「韓国対日本」という単純な構造には収まらず、複雑な多重的・多層的な構造になっていると考えられる。固有の問題と、共通する問題を検証し、報告し合う。

討論では報告された課題（研究テーマなど）が両国で共有され、今後のシンポジウムや両国研究者でその解決にあたる可能性などを議論する。そして共同研究が可能なテーマを見出す。

全体を通して、両国が政治レベルと文化レベルで共生・共感できる形を模索する機会としたい。

【プログラム】

9:00 受付開始

9:30 開 会

会長挨拶 谷藤悦史（日本マス・マスコミュニケーション学会、早稲田大学）
金 東奎（韓国言論学会、建国大学）

10:00～11:00 セッション I：ジャーナリズム

「社論ジャーナリズムの限界：『慰安婦問題』における日本の全国紙の対立」

竹川 俊一（立命館アジア太平洋大学）

「東アジア勢力転換期における日韓関係とジャーナリズム：日韓共同研究の提案」

朴 宣映（国民大学）

11:00 ～11:10 休憩

11:10～12:10 セッションⅡ：放送

「2000年代以降、バラエティ番組からみる日韓間の相互イメージ」

オ ユラ（東京大学大学院生）

『一人世帯』におけるTVドラマの再現と受容分析：日韓の比較文化的なアプローチ」

金 秀貞（忠南大学）

12:10～13:30 昼食、休憩

13:30～14:30 セッションⅢ：メディア研究の現状

「大衆社会とメディアとの関係についての日韓比較研究に向けて」

阪本博志（宮崎公立大学）

「日韓における言論学研究の動向と展望：韓国の言論学術誌における日本を対象にした論文のメタ分析」

李 洪千（慶応義塾大学）・金 渭根（韓国言論振興財団）

14:30～14:50 休憩

14:50～16:40 総合討論「グローバル時代の日韓共同研究の可能性」

司会 古賀純一郎（茨城大学）

奥野昌宏（成蹊大学） 山中千恵（仁愛大学）

韓 眞萬（江原大学） 元 容鎮（西江大学）

16:40 閉会 韓国言論学会次期会長挨拶 沈 載喆（高麗大学）

17:30 懇親会（高田牧舎）

※すべて同時通訳が付きます。

※参加費：500円（資料代） 懇親会費（会員のみ）：2,500円

【事前申込不要／参加費・懇親会費は、当日、受付にて申し受けます】

※プログラムの内容は一部変更することがあります。

以 上